

# 公共事業の環境変化と 技術者の基本精神



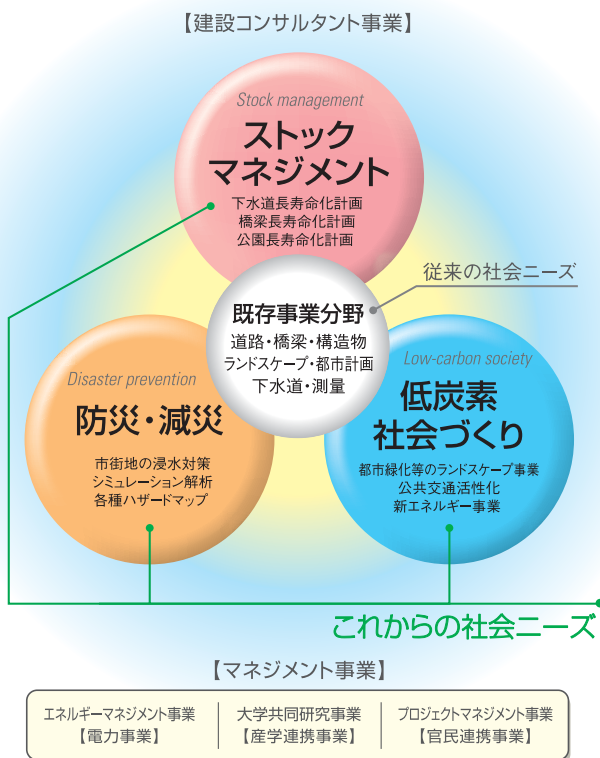
バブル崩壊以降にコンサルタント業界に飛び込んだ我々の世代は、ここ20年辛抱に辛抱を重ねてきました。絶え間のない公共事業批判、そして予算の削減、発注単価・技術者単価の下落、そして報酬の下落。そのような状況に見切りをつけ、他の業種に転職していく仲間も数多くみられました。社会の発展に貢献できると信じていた土木技術者が、公共事業批判の中でその評価が揺らいでいる。こんなつもりではなかった……。

しかしながら、最近、公共事業を取り巻く環境に少しずつ変化が出てきています。東日本大震災を契機に、来るべき首都圏・東海・東南海大地震に備えた国土の強靱化への必要性が言われ始めています。そしてその必要性和同期しているのが、日本経済のデフレ対策であり、公共投資でデフレ脱却と経済成長を目指そうというものです。本稿にも投稿いただいている藤井聡先生が主導した「国土強靱化基本法」も国会に提出され、その法律が本格的に運用される時にはもしかして前年度予算対比で公共事業関係費が増加しているかもしれません。まさに我々バブル崩壊以降の技術者が初めて経験する公共マーケット拡大なのかもしれません。

一方で、現在残っている厳しい時代を耐え抜いた建設コンサルタント技術者は、公共マーケットの増減にかかわらず、逆に試練や変化をチャンスととらえて頑張ってきた連中です。残業や土日出勤に耐え、公共事業にかかわり発注者にサービスを提供する立場に何よりやりがいを感じ、公共事業がどんなに非難されようと、コンサルティング業務を通じての地域社会への貢献にこだわり続けた不思議な連中。第一版でも書きましたが、今のコンサルタント業界に残っている技術者はそんな人間が多いのではないのでしょうか……。そんな技術者の魂の根底に流れる精神は「技術の研鑽」であり、技術力だけが唯一の付加価値であるという基本精神なのだと思います。どんな時代であろうとも「技術の研鑽」という基本精神は不変であり、その精神を忘れないからこそ、どんな時代になろうとも、

ひたすらコンサルティング業務に没頭することができるでしょう。

さて、NiXテクニカルレポートも今回で3年目(3冊目)となります。我々の「技術の研鑽」の集大成であり、3冊目を発刊できることに際し、お世話になっている発注者の皆様にはあらためて御礼申し上げます。本書の技術報告も、皆様からいただいたお仕事の中で得られた経験でありますので、微力ながら、技術的なご報告をさせていただくことで、機会を与えていただいた恩返しの一部になればと思います。地域の「理想の技術者」集団でありたい……。その思いを胸に、これからも皆様のお役に立てるよう努力いたします。今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



平成24年6月  
(株)新日本コンサルタント 代表取締役社長  
市森 友明